

# 2学年通信

## Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 45号 通算 109号

2016.8.23 (火) 発行

### 好きなことを書いてみようと思ふ III

文責 横山

昨日「台風の影響で午前授業です」という放送に米興が揺れた。授業がつぶれて残念、合唱&興譲祭の準備ができないのでどうしよう、という動揺もあっただろうけれど、家路に向かうその表情は、皆一様に「明るい」と感じたのは気のせいだろうか。突然のアクシデントにも冷静の対応できることは素晴らしい(し、予想外にこんなことがあると生徒諸君は嬉しいよね?)私も、学年通信を書く時間が作れたので正直言って「ありがとう台風!」。夏休みの絵日記に「夏休みは短いけれど、その分早く友達に会える」と書いてくれた生徒がいる。要は何事も前向きに考える(その生徒は自身を洗脳すると言っていた?)ことは「幸せになる法則1」なのです。流れなので続けますが、法則2「尽くす喜び」。A 高校での常勤講師時代、ただのアホな大学5年生だった私に、同じ数学科のK.T先生がこう教えてくれました。「他者から頂く喜びは限りあるけれど、人に尽くすことは無限にできる。尽くす喜びを感じなさい」と。これは今も自身の大きなバックボーン。「朝教室や廊下の窓を開けることで、後から来るクラスメートが爽やかな風を感じることができる」ことはその一例ですが、米坂線始発の生徒達は毎朝してくれているのです。そのようなことを、8時位まで寝ていて、遅刻ギリギリで不機嫌に登校するY沢市内のアナタは廊下を歩くとき気づくべきです。すべてのベクトルが自分自身に向かっている人は、自身が幸せになれないだけでなく、家族を含め他者をも不幸にします。私は悲しい事件が報道されると「自己愛なのだろうな」と考えます。そこに原因があるものは世の中多いと思う。生徒諸君は現代はもちろん、過去の歴史を学ぶときに考えてみるといい。「何が原因だったのか」と。そして、将来は「米興の世に尽くす精神」を世界中に流布して、平和な世の中を作って欲しい。とすれば「米興は地球を救う!」は言い過ぎではないとも思う。100年、1000年後に「ここ笹野が世界の精神のメッカ」になるかもしれない。あらあら予定外に法則3。これは「信じること」。本日閉幕したリオオリンピックについて、あえて通信にすることを避けてきましたが(そういう性格です?)、シンクロナイズドスイミングの「井村雅代コーチ」ことは頭から離れない。それは先生が(何となく井村さんは先生と呼びたい。調べたら以前は中学校の体育の先生だった)、最高の演技のための明確なビジョンを持ち、そのために必要な練習やトレーニングを選手に迎合することなくひたすらやり、勝負で最も大切な「心の強さ」をも持ちえた選手に育て上げたこと。メディアは「辛い練習のこと」や「井村コーチの鬼ぶり」についてばかり聞くのは残念だったけれど、「今後も競技を続けますか?」という質問に対して、ほぼ全員が「続ける」と答えたこと。井村先生を「信じて」ついてきたことで得られた喜びはもちろん、選手に「信じられた」井村先生の喜びもそこにあると確信する。結びに。幸せの法則何でもものは無い。「幸せの形位ワタシに決めさせて♪」と、さだまさしも歌っている。幸せって何でしょうね。そんなことを考えている私は、きっと今幸せですネ 終

合唱コンクールを「2年生の曲名 etc.」を紹介します。

#### No.1 2年5組 曲名 夜明けから日暮れまで

作詞 和合亮一 作曲 信長貴富  
指揮者 なし 伴奏者 柴田澪花  
《クラスアピール》

土井先生の「まあ、優勝だよね?」という言葉に胸に、毎日練習を頑張ってきました。プレッシャーに負けないように精一杯頑張ります。

#### No.2 2年3組 曲名 蛍

作詞 桑田佳祐 作曲 桑田佳祐・片山敦夫  
指揮者 山木大輔 伴奏者 松木詩歩  
《クラスアピール》

私たちのクラスは、担任の芳賀有美子先生を筆頭にとっても明るいクラスです。でも、力が合わさればどのクラスにも負けないものすごいパワーを持っています。2年3組らしさを出して頑張ります。

#### No.3 2年1組 曲名 Circle of Life

作詞 Elton John 作曲 Elton John  
指揮者 なし 伴奏者 上杉有里奈  
《クラスアピール》

わっしょい(真顔) 今年の理数科は一味違います。 人人人人人人人人人人人人  
>今世紀最大の真面目<  
—^Y^ Y^ Y^ Y^ Y^ Y^ Y^—

#### No.4 2年4組 曲名 明日への手紙

作詞 池田綾子 作曲 池田綾子  
指揮者 佐藤遥佳 伴奏者 佐藤実桜  
《クラスアピール》

人数は少ないですが、他に負けない歌を目指し、頑張りたいと思います。

#### No.5 2年2組 曲名 ほらね、

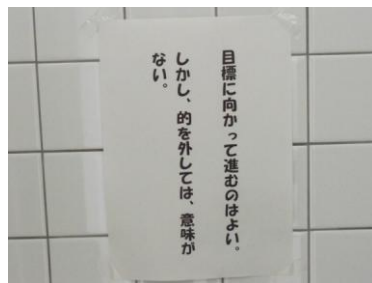
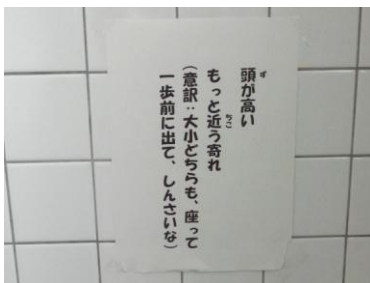
作詞 伊東 恵司 作曲 松下 耕  
指揮者 須藤寛天 伴奏者 昆千裕  
《クラスアピール》

2学年で最も人数が多いです。47人と大所帯ですが、一人ひとり一生懸命練習してきました。2年2組ならではの「ほらね、」をお聴きください。

PS 合唱コンクールは、8月26日(金)9:30~ この演奏順で発表します。  
ぜひ、多くの保護者・ご家族・ご近所の皆様のご来校をお待ちしています♪

しかし、このタイトルはすごく便利だ。何でも書けるし途中で方向転換も自由だから。実は I では「凄く洗車の上手なガソリンスタンドの兄ちゃん (N オスの N さん)」の予定が好きな自動車評論家の話となり、II では米興の歴史のつもりだったのに「なってはいけない米興生」という辛辣な文章を書くことができた。普段は書くのを躊躇うようなことも？ このタイトル故に「横山が好きなことだから仕方無い」と皆さん許してくれそうで嬉しい。ということで、今回も思いつくまま書いてみようと思う。先日、ある人から「学年通信を HP で愛読している卒業生がいて、その卒業生は母親にも読むように勧めたこと」をお聞きした。その人の好きな話は「息子の大学受験物語」だそうです。中々いい趣味しています。私の中のベスト5です。本文も読んでくれているかもしれません。アナタのような「遠くの愛読者の方々」がいることは大きな励みです。これがプレッシャーとなってハゲミ？にならない程度にガンバりますね。さて、近くの愛読者である Y 口 Y 先生から「鳥取の話しを聞きたいです」というリクエストを頂きました。ちなみに、彼は毎週「気概」というクラス通信を作っています。そのタイトルも紙面フォーマットも彼の担任だった「K 坂先生」のバクリなのですが（素直に褒めたくないの？）心温まる素敵な文章を書かれていて2学年掲示板で紹介しています。しかし、ある意味同志の期待に応えないわけにはいきません。では「ドキュメント鳥取24時」を伝えよう！

以前書いたように6月から8月にかけて都合10日ほど鳥取を訪れました。鳥取というと98%の人は「鳥取砂丘とラクダ」または「砂場コーヒー」と言けれど、私もその程度だった。鳥取や島根はある意味、山形県人にとっては四国以上に「遠い国」だと思う。そこで、訪問した高校（インターハイの主会場だった八頭高校）をリサーチしてきた。私は県内外の高校（学校）を訪れることも多いのだけれど、そこで必ず見るのは（使うのは？）トイレです。トイレはその建物の顔だと思うのです。またトイレは、その建物に住んでいる人達の「文化の程度」を如実に現わすとも思うのです。その八頭高校のトイレは、綺麗さもさることながら右上のような張り紙がありました。「一步前へ 勉強・部活も 今この時も」これには痺れました。常々「言葉にはインパクトを」「文章にはユーモアを」「紙面には文化を」を目標にしていますが、学年通信100号にはこれに匹敵するものは無いなと完敗です。その他もありまして（下）いずれも秀逸です。これらは先生達で作ったのだと思うのだけれど、もし生徒だったら驚きです。このような言葉を作り掲示し、トイレを大切にしている人がいる高校は素晴らしい高校に違いありません。全てを見なくともきっとそうです。「神は細部に宿る」ものであり「紙は西浄に宿す」ものなのですか？



PS なお関係者の許可を得て、生徒使用時以外に撮影しています。

皆さんも八頭高校という名前は覚えておいて下さい。米興同様、歴史ある藩校で、野球では甲子園、今年も多く部の活動でインターハイに出場した文武一道頑張っておられる高校です。ちなみに右下の写真は、八頭町のイメージキャラクター「やずびよん」との2ショットです。八頭町には「白兔伝説」という言い伝えがあるそうなので紹介します。

八頭町には白兔伝説が色濃く残されていて、いにしえより白兔神への信仰が脈々と息づいています。白兔伝説の里・八頭町の象徴として現代に蘇ったのがこの兔のオブジェ（神ウサギ）です。神話の中で、オホアナムヂ（大国主命（おおくにぬしのみこと））の教えに従って元通りの体になった兔は、「あの八十神（やそがみ）たちは、けっして八上姫（やかみひめ）を手に入れることは出来ないでしょう。あなた様が手に入れられるでしょう」と予言しました。すると、この白兔神である兔の予言通り、八十神たちに求婚されると、八上姫は「私はあなたたちの言うことはききません。オホアナムヂの神様と結婚いたします」と返答されました。そして大国主命と八上姫の恋のキューピットが因幡の素兔（シロウサギ）とされ、そのゆかりの地のひとつが八頭町福本にある「白兔神社」です。八頭町HPより



鳥取の隣は島根県ですから、神話が豊富なのは頷けます。次はやはり「砂丘とラクダ」です。砂丘はその名の通り「砂の丘」です。鳥取さんには大変失礼ですが、私にはその程度の表現力しかありません。すいません。そのお詫びにラクダに乗った写真を公開します。砂丘には8頭ほどのラクダがいて1人1500円で”月の砂漠を遙々と 旅のラクダが行きました♪”という「乗ラクダ体験」ができます。ちなみに2人乗りは2200円です。ラクダは実に妙な動物です。首が長く歯は大きく、背中にコブもあります。何でそのような容姿になったのかお聞きしたい位です（そりゃ砂漠に適応したのでしょうけれど…）。なお、乗った感じ「コブや背中はかなり固い」です。ゴツゴツです。映画「アラビアのロレンス」で、ロレンスはラクダで長旅をしますが、よほどお尻の強い人だったのだと思います。また、ラクダは「長時間歩き続けるイメージ」がありますが、実際は疲れやすい体質らしく「ときどき休憩が必要だ」と持ち主の方が話しておられました。私は「ラクダ飼っているってカッコイイですね！」と褒めたつもりだったのですが「牛と同じだ」と憚然と言われましたので、次の一手である「ラクダって美味しいですか？」は封じられてしまいました。悔しいので「ラクダはちょっと臭い」というネガティブ情報をお知らせいたします（本当性格悪い！）



このように様々あった鳥取ですが、ここで紹介できない位に美味しいモノも沢山ありましたし、人情味溢れる皆さんでした。私の持論「山形県民は日本海側の県民と相性がイイ！」。生徒や保護者の方はいかがでしょうか。私はそう感じる人が多いのです。PS 太平洋側の人と合わないという事ではありません (-\_-) 終

